

## 魚嶺山のトケビ2

むかし四人兄弟がいたんだって。ある日、父さんが「おまえは誰の飯を食べてるんだ」って聞いた。そしたら長男は「わたしは、父さんの御飯をいただきます」って答えた。次男もおんなじ答をした。三男もおんなじ答だった。

でも、来っ子だけは「わたしは、わたしの御飯を食べてます」って答えたんだ。そしたら、父さんはすごく怒って、その子を追い出してしまった。

その子は、平然と家を出て、そとに新しい家を立てて移り住んだんだ。父さんからもらった、ほんの少しの、石だらけの畑を耕しながらね。そうして、まいにち石をとっては、その後の大穴に、犬の糞をひろってきて入れて、そこに煙草を植えたんだって。そしたら、煙草がずんずん育って、村の人たちはみんな羨ましがった。

ところがある日、畑にしてみると、煙草がぜんぶ折られてた。末っ子は、「きっと父さんのしわざだ」ってすごく怒って、殴りつけたんだ。村の人たちは、これを見て、親不孝だって悪口をいった。

その次の年、末っ子はもっとたくさん大の糞を穴にうめて、煙草をそだてた。そしたら、去年よりもっと大きな煙草ができたんだ。そうして、畑のとなりに小屋を立てて、煙草の番をした。

そしたら、ある晩、夜中にガヤガヤ騒がしい声がする。来っ子が目覚めると、畑のまん中に、誰かが葬式の歌をうたいながら棺を運んでる。そうっと近づいてみると、そいつはなんとトケビだった。そうして、しばらく仕事をしたあとで、一匹のトケビが「今日はここまで。あとは明日にしようじゃないか」っていったんだ。そしたら、残りのトケビも、ゾロゾロどっかにいっちゃったのさ。

その翌日、末っ子が畑にあって、その棺をあけてみると、なんと金や銀やいろんな宝がギッシリ詰まった。来っ子は、そいつをぜんぶ家にもってきて、たちまち大金持ちになったんだ。

それから何日かして、父さんの還暦の祝いがあったから、その子は郡と村の人たちをみんな招待して、御馳走をした。そうして、郡でも村でも親孝行息子だって、たいへんな評判になったんだって。(語り手：南舜朝・1910 生まれ)